

平成21年度 地域景観づくり緊急支援事業
松山城下大街道交差点周辺地区
立体的景観計画策定による景観形成推進モデル事業

愛媛県松山市

○景観ビジョンの策定

- ・再開発事業の景観誘導
- ・景観法に基づく景観計画区域の指定に向けた景観誘導・規制に関する検討

概要	戦後の復興期から今日まで、地域振興の一翼を担ってきた中心市街地においても、空洞化の進展に伴い、経年による建物の老朽化や耐震強度不足が顕在化し、土地建物の共同利用化、バリアフリー化等の新たな機能の充実に加え、個性を活かしたまちなみ景観によるまちの差別化が求められてきた。 そのなかで、大街道二丁目東地区における再開発など、「まちの更新」に向けた動きが具体性を増したことから、将来の「まち」の姿や景観形成の取り組み方向を関係者で共有するため、「景観ビジョン」を策定するとともに、合意形成のツールとして、変更可能な現況模型やコンピュータグラフィックによる3次元バーチャルリアリティを制作したものである。
実施内容	① 対象地区の現状把握 ・意見交換会の実施 地元の中学生と来街者(大学生・一般)から、まちの現状と将来に関する意見を聴いた。 ・地元商店街の意向調査 大街道一番町口まちづくりを考える会による活性化戦略検討会のグループ討議結果を活用した。 ② 検討ツールの制作 ○現況模型(1/500) ・対象地区の現況に基づき制作するとともに、再開発予定箇所についてはシミュレーションを行うため可動式とした。 ○3Dバーチャルリアリティ ・対象地区をウォークイン機能による視点移動を可能とし、景観ビジョンの検討過程及び結果に基づくシミュレーションを制作した。 ③ 景観ビジョンの策定 ○景観検討委員会 ・学識経験者、地元関係者、再開発事業関係者並びに行政担当部署で構成する検討委員会を設置し、今後目指していく大街道周辺地区の姿を、現況模型と立体画像を用いて、街の更新イメージをわかり易く表現し、景観ビジョンの内容を検討協議した。
取組の成果	○景観ビジョン ・「立ち寄りたくなる まちづくり」を景観まちづくりのテーマとして、地区を通りごとに5つのゾーニングを行い、それぞれの通りについて、(きれい・快適)(賑わい・憩い)(安全・安心)(地域の個性)をキーワードに景観まちづくりの方向性と景観誘導・規制の考え方をまとめた。 ○景観まちづくりへの取り組み ・「まちづくり」に「景観」という観点を持ち込むことで、より具体的なまちづくりの推進が可能となった。また、関係者がまちに対して共通の認識を持つことで、未来のまちの姿を考える際の方向性を示すことができた。 ・現況模型やバーチャルリアリティを検討に用いたことにより、関係者の思い込みや曖昧なイメージを払拭し、まちの現況を把握しながら、将来に向けたイメージを共有することが可能となった。
今後の課題	○周辺地区への影響及び整合性の確保のために、検討範囲の拡大が必要となっている。 ○幅広い地元意向を踏まえた多様なシミュレーションの検討が求められた。
今後の展開	○今回策定した「景観ビジョン」や現況模型、バーチャルリアリティを合意形成ツールとして、地区における景観まちづくりに対する意識の醸成を図り、地元検討組織の立ち上げと景観計画策定に向けた素案の検討に繋げていく。
市町村名	愛媛県松山市
部局／担当者名	都市整備部(開発・建築担当) 都市開発課
連絡先	TEL : 080-948-6466
リンク	http://www.city.matsuyama.ehime.jp/tosikaihatu/



① 地元中学生・来街者(大学生・一般)との意見交換会



現 況



シミュレーション



景観検討委員会での活用

② 現況模型



アーケード一部撤去



壁面後退・緑化・アーケード撤去



アーケード屋根中央部撤去



景観検討委員会での活用

② 3Dバーチャルリアリティ



③ 景観検討委員会